

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(1) 美しい景観を守り、豊かな自然と共生した多様な暮らしを満喫

できる生活環境を形成します



新規事業



拡充事業

(事業名の頭に標記)

公営住宅建設事業 2億21万円

【令和元年度への繰越額 5,648万円】

(担当: 建築住宅課建築係)

安心して暮らせる居住・生活環境整備を図るため、老朽化の著しい公営住宅の建替えを行いました。



建替後の市営中の茎住宅 (高清水地区)

建替《高清水》市営中の茎住宅

解体《築館》市営下待井住宅

《鶯沢》市営原住宅

《鶯沢》市営柳沢星ヶ丘住宅

住環境リフォーム助成事業 2,100万円

(担当: 建築住宅課建築係)

市民の住環境の向上を図るため、個人住宅のバリアフリー化や防災、省エネ化等と併せて実施するリフォーム工事に対して助成しました。

助成件数 82件



バリアフリー工事が行われた住宅

中核機能地域開発基本構想策定事業

1,648万円

(担当: 企画課企画政策係)

「中核機能地域」に位置づけている東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域について、新たな交流や賑わいを創出する拠点として開発するための基本構想を策定しました。

道路整備事業 (都市計画街路事業含む)

2億6,127万円

【令和元年度への繰越額 2億5,703万円】

(担当: 建設課建設係、都市計画課都市計画係)

市民の生活を支える基礎となる市道を整備し、安全で快適な道づくりを進めています。

《築館》栗原中央西線、東沢二号線

横須賀上畑岡線

一迫南線、駅前大通線

《若柳》川北花泉線、新山十文字線

《一迫》長崎細倉線 (旧清水目・嶋躰線)

《金成》片馬合萩荘線



整備が進む新山十文字線 (若柳地区)

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(1) 美しい景観を守り、豊かな自然と共生した多様な暮らしを満喫

できる生活環境を形成します



＝新規事業



＝拡充事業

(事業名の頭に標記)

地域交通対策事業 2億2,965万円

(担当：市民協働課地域振興係)

公共交通の利便性向上のため、市民のニーズに配慮しながら、利用しやすいバス運行を行うとともに、引き続き中学生・高校生の片道運賃100円と古川線での通学定期券購入助成、障がい者や65歳以上の運転免許返納者への運賃半額割引を行いました。

また、新年度からの公共交通ネットワークの再編に向け、運行準備を進めました。

古川線通学定期補助

申請者数 延べ 1,036人



住まいる栗原シェアリングタウン事業

1,685万円

(担当：管財課財産係)

若者世代の移住や定住促進を目的に、市が所有する未利用地（志波姫地区）を新たな住宅分譲地として整備するため、実施設計を行いました。



住宅分譲地（完成予想図）

移住定住支援事業

6,646万円

(担当：定住戦略室定住戦略係)

空き家活用促進事業

空き家バンク制度により、空き家の登録情報を市内に居住したい方に提供し、制度を利用して空き家を取得等した転入者には、リフォーム工事費の一部を助成しました。

また、栗原市での生活を短期間体験してもらうため、移住体験施設を無料で貸出し、関係人口の増加や移住の促進を図りました。

移住定住助成事業

民間賃貸住宅に入居する新婚世帯への家賃助成や、住宅を取得等（新築・購入・増改築）した転入者等への住宅取得等資金の一部助成、遠距離通勤（片道50km以上）する若者等への通勤経費の一部助成などを行い、転出抑制と転入促進を図りました。

移住定住促進事業

首都圏で開催される移住フェアなどで積極的に移住相談に応じたり、「子育ての街、くりはら。ビックりはら！」をキャッチコピーに、特設ウェブサイトの開設や子育て情報誌を活用した情報発信を展開しました。

移住者実績 40組98人

※市の支援制度を活用した移住者数





一社）くりはらツーリズムネットワークと連携した体験型移住相談会を開催



ウェブ公開中の子育て支援策PR動画「ビックりはら 栗原市」で今すぐ検索！

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(2) 豊かな心と文化を育み、生涯を通じて学べるまちづくりを目指します

 = 新規事業  = 拡充事業 (事業名の頭に標記)

くりはら市民大学の開設 154万円

(担当：社会教育課生涯学習係)

生涯学習の推進と学びを生かした地域づくりの振興を図るため、暮らしや健康に関わる情報などをテーマに学ぶ、くりはら市民大学を開設しました。

学習内容は、多くの市民の皆様が興味を持ち、栗原にいながら学びに向かい合えるものとし、専門的な知識や経験等を有する方に講師を依頼し、全7回の講座を開催しました。

受講者数 106人
延べ受講者 625人

公民館整備基本構想策定事業

294万円

(担当：社会教育課生涯学習係)

老朽化が進んでいる公民館の整備にあたって、施設の規模や機能などを検討するため、基本構想を策定しました。



老朽化が進む若柳公民館

文化施設整備事業 1億208万円

(担当：社会教育課生涯学習係)

若柳総合文化センターは、平成6年の開館以来24年が経過し、老朽化が進み外壁の剥離等が生じていることから、安全にご利用いただくため改修工事を行いました。

(3) 安全・安心なまちづくりを推進します

耐震診断・耐震改修工事助成事業

1,705万円

(担当：建築住宅課建築係)



今後発生する大地震に備え、昭和56年以前に建築された木造住宅に対して、耐震診断士を派遣し、耐震診断並びに改修設計を行いました。さらに、診断に基づく耐震改修工事に対し助成を行い、安全・安心な居住環境の確保を支援しました。

- 木造住宅耐震診断助成事業
耐震診断士の派遣、診断、設計の支援
- 木造住宅耐震改修工事助成事業
木造住宅の耐震改修工事への助成

助成件数
木造住宅耐震診断助成事業 28件
木造住宅耐震改修工事助成事業 12件

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(3) 安全・安心なまちづくりを推進します

=新規事業 =拡充事業 (事業名の頭に標記)

防災倉庫整備事業 2億4,239万円 (担当：危機対策課防災係)

市が保管、備蓄する支援物資（食糧、飲料水など）を一括管理し、災害時に各避難所へ支援物資を円滑に運ぶため、市役所南側に防災倉庫を整備しました。



完成した防災倉庫



防災倉庫の内部の様子

自主防災組織活動支援事業 319万円 (担当：危機対策課防災係)

「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災意識の向上を図るとともに、災害による被害を軽減するため、自主防災組織が自ら行う防災訓練や、講習会などに要する経費の2/3（上限3万円）を助成しました。

助成件数 123組織



災害に備え訓練する自主防災組織

交通安全施設整備及び防犯灯整備事業

1,197万円
(担当：危機対策課防災係)

交通事故防止及び夜間における犯罪抑止のため、地域の要望に対し現地調査を行い、カーブミラーやガードレール及び防犯灯を整備しました。



整備件数	カーブミラー	36箇所
	ガードレール	3箇所
	路面表示	4箇所
	交通事故防止看板	1箇所
	防犯灯	67基



新設したカーブミラー

1 「恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまち」

(3) 安全・安心なまちづくりを推進します

 = 新規事業  = 拡充事業 (事業名の頭に標記)

防犯カメラ設置事業 316万円

(担当：危機対策課防災係)

犯罪の未然防止を図り、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、防犯カメラを設置しました。

築館地区 2台
若柳地区 2台
栗駒地区 2台



犯罪の未然防止が期待される防犯カメラ

消費生活相談窓口設置事業 474万円

(担当：産業戦略課商工振興係)

契約トラブルや悪質商法等、多様化・複雑化する消費生活相談に対応するため、専門知識を有する相談員を配置し、相談に応じました。

〔相談窓口〕

月曜日～金曜日 9時～16時
(祝日・年末年始除く)

専用電話 0228-22-1501

相談件数 235件

消防団装備充実強化事業

2,579万円

(担当：消防本部総務課総務係)

消防団員の災害現場における活動時の安全性と機動性の向上を目的として、活動服の更新をしました。

従来の服制を踏襲しつつ、オレンジ色の配色を増やすデザインとすることで、夜間の活動時の視認性の向上が図られました。

活動服購入数 1,674着



新しい活動服による訓練の様子

消防指令センター指令装置整備事業

8,424万円

(担当：消防本部警防課指令係)

市民の生命と財産を守るため119番通報の際に受信する指令装置の整備を行い、消防・救急体制の充実を図りました。

- ①指令台 ②非常用指令設備 ③指令制御装置
- ④携帯電話・IP電話受信転送装置
- ⑤署所端末装置 ⑥無停電電源装置
- ⑦直流電源装置 ⑧駆込み通報装置



更新後の消防指令装置